


【愛知県美術館見学に向けての授業】

本物の色を見に行こう！『人生は戦いなり』 クリムトを通して

1 無彩色（白黒コピー）の複製画を鑑賞しての話し合い

指導ポイント 絵のすばらしさ、工夫されているところなどに気づかせるために、全体⇒細部⇒全体と、みる視点を与え、感じたこと思ったことを自由に発表させる。



この絵の全体を見てどう思う？
何が描いてある？

戦いに行くみたい…。

戦いから、帰ってきたのかも…。


馬、花、レンガ、人…。

背中がピンと伸びている。剣を持っている。

馬、人、まわり…は、どんな様子？

2 本物の色を想像して、ワークシートに彩色

指導ポイント ・色に対する関心をもたせるために、自分なりに実際の絵の色を想像して彩色する。
・画家の意図に少しでもせまることができるように、絵から見えるものだけにとどまらず、描いてあるものから想像する活動を取り入れる。



この絵はどんな色で描かれているのかな？自分だったら、とおもう色は？

戦いといえば、血…赤でぬってみよう。

実は…本物の絵があるよ。

どこにあるの？
見てみたい！

今度見に行こう！

授業後の考察

- ・ 無彩色の絵を見て実際の色を想像するという活動に、子どもたちは楽しみながら取り組むことができた。それぞれの頭の中に描かれた『人生は戦いなり』を考え、様々な場面を想像できた。実際の色を想像することにより、美術館へ出かけて、自分の目で確かめたいというおもいをもつことができた。

鑑賞活動のあり方を下記のようにとらえ実践を進め、愛知県美術館の見学に至るまでに様々な活動を行ってきた。

鑑賞活動は、それぞれの自然物や造形物の美しさを直接感じ取り、味わうことにより、子どもたち一人一人の素直な見方や感じ方を育てていく活動である。その活動では、子どもたち同志が、あるいは、作者と子どもとが、創造の世界の中で対話をしたり、喜びを感じ合ったり、問いかけをし合ったりすることができる。そして、子どもたちは、他者との感じ方や表現の違いに気づいたり、ものの本質や美しさに感動したりするようになっていく。このような意味で、学習指導要領には、鑑賞活動について表現活動との関連を図ることが示されている一方、実態に応じて、指導の効果を高めるため必要がある場合には、独立して行うようにすることが示されている。しかし、従来の授業においては、美術史的な知識や、表現技法や制作のヒントを得るために行う、作品主導型の鑑賞活動が多く行われてきた。

そこで、まずは**鑑賞の対象**を、世界的な評価を受けた芸術作品や伝統的なものだけでなく、生活を取り巻くすべてのものへと幅を広げるとともに鑑賞活動の意義を満たすために以下のような**場や方法**を考えた。

(ア) 鑑賞活動の対象

- 世界の美術作品…絵画・デザイン・彫刻・工芸・建築など
- 子どもの作品…自分や友だち・世界の子どもたちの作品
- メディアに関わる作品…映像・写真・絵本・漫画・CGなど
- 生活や遊びに関わるもの…建造物・日常生活品・衣服・民具・玩具など
- 行事や祭りに関わるもの…祭りの人形やお面・衣装・正月や節句の飾りなど
- 自然的なもの…草花・木・石などの自然物、昆虫や鳥などの生き物、自然現象など



【名古屋市美術館常設展見学】

(イ) 鑑賞活動の場

- 美術館・博物館等の施設…本物の作品に出合える場
- 校内環境…教室内や校舎内の掲示版など
- メディア…図書・テレビ・ビデオ・インターネットなど
- 修学旅行や校外学習…建造物、自然物など
- 地域…建造物、自然物、日常生活品など



【愛知県美術館戸谷成雄展見学】

(ウ) 鑑賞活動の種類と方法

- 体験的鑑賞…今回の実践で、特に重視してきた鑑賞方法である。自らの体験を通して行う鑑賞で、次のような方法を考えた。
 - ・ ワークシートなどを活用しながら、様々な画家の作品を学年に応じた方法で活用し、自分なりの課題を追求する方法
 - ・ アートゲームの工夫により、子どもたちが、主体的に楽しく鑑賞する方法
 - ・ 作風や作者の筆づかい等を模倣しながら鑑賞する方法
 - ・ 実際に作品にふれるなど、五感を働かせながら鑑賞する方法
 - ・ 校外学習を利用して美術館を見学し、実際に本物の作品を鑑賞する方法

美術館を見学するときには、学芸員の方と連携を図り、見学の際の計画を練ることにした。美術館では、本物の作品に出合えることは勿論、学芸員の方による充実した内容のワークシート等が用意されており、子どもたちにあった鑑賞の視点が示されている。また、子どもたちの意欲を喚起させるようなワークショップやギャラリートークといった催し

がなされており、授業では、味わえないような貴重な体験をすることができる。また、作者を招いて制作の様子を見せていただいたり、作品によせるおもいを聞いたりする機会をもちたいと考えた。

その他にも以下のような鑑賞の種類もあるが、必要に応じて活動の中に取り入れていきたいと考えた。

- 単独鑑賞と比較鑑賞…ひとつの作品を単独で、または、二つ以上の作品と比較してみる鑑賞方法。例としては、同じ作者の同じタイトルの作品を見比べたり、違う作者の同じモチーフの作品を見比べたりする。**(愛知県美術館所蔵 「人生は戦いなり」 クリムト の作品を使った実践は、単独鑑賞)**
- 部分的鑑賞と総合的鑑賞…描かれたものの一部を取り出して考えたり、全体の作品の大きさを感じ取ったりしながらみる方法。